

新教授×同窓会会長 会談

『新しい風が吹き 未来へと広がる』

実施日

2024年12月16日



Interviewee：歯科医療管理学講座教授 小椋 正之（写真左）

口腔外科学講座教授 石井 良昌（写真右）

Interviewer：同窓会会長

古谷由美子（写真中央）

【質問事項】

- ・今までのキャリア
- ・趣味
- ・教育機関へキャリアを変更し 松戸歯学部を選択した理由
- ・入職3か月 松戸歯学部の印象
- ・これから歯科業界に対応できる歯科医師像とは
- ・松戸歯学部の学生に対し教えたいこと メッセージ

古谷会長

教授就任おめでとうございます。ようこそ松戸歯学部へ。

この会談は、先生方が赴任され、大学に新しい風が吹いた事をお知らせし、お二人を身近に感じていただくことを目的としています。

《 今までのキャリア 》

小椋教授

1994 年に長崎大学を卒業し、1995 年に国立公衆衛生院で Master of Public Health を、1998 年に岡山大学で学位を取得しました。1998 年から 2024 年 6 月末日まで、厚生労働省で 26 年 3 か月勤務しました。その間、歯科医師国家試験や診療報酬改定などを担当しました。

石井教授

1990 年、日本歯科大学を卒業後、東京医科歯科大学・第 2 口腔外科に入局、11 年間、唇顎口蓋裂治療グループで赤ちゃんから大人まで、鼻咽腔閉鎖機能不全や顎変形症などの手術を担当しました。

2001 年、海老名総合病院へ移籍し 23 年務め、口腔外科処置のほか口腔ケア、入院患者の処置と栄養管理、摂食嚥下障害の対応なども行いました。

2023 年 10 月から 2024 年 9 月まで、関連病院で歯科を開設、訪問歯科診療部門を立ち上げました。

古谷会長

ありがとうございます。松戸歯学部でも今、訪問診療に力を入れていますので、石井先生のご経験が活きてきますね。

つぎは、お二人のお人柄を知っていただきたいと思います。



《 趣 味 》

石井教授

趣味は仕事と言っても良いと思います。診療のほか、多くの所属学会で土日出勤もありますが、すべて楽しんでいます。

また、海老名総合病院ではボウリング同好会長になり、20数年大会を開催、先日96回大会を開きました。皆とワイワイ楽しむことも趣味の一つです。

小椋教授

小型船舶2級・1級、小型特殊の免許を持っています。昨年9月に7人で新しい船を購入しました。ただ、厚労省退職や大学入職などの影響で、まだ一度もこの船を見ていません。元旦に”初日の出”を見に行く予定で、やっと見ることができそうです。

それから、250ccのスクーターに乗ったり、ダイビング、スキーも行っています。

古谷会長

小椋先生はアクティブなのですね。石井先生はボウリングですね。



《 教育機関へキャリアを変更し 松戸歯学部を選択した理由 》

小椋教授

厚労省の歯科医師は殆ど、50～55歳で退職していて、私も55歳で退職しました。そのときにちょうど松戸歯学部の公募があり、運よく教授になれたというところです。

日大にはもともと縁があり、両親が日大歯学部卒です。さらに、創設者の鈴木勝先生が両親の仲人で、不思議な縁を感じています。

石井教授

私も大学受験で日大も受けていて、受からなかったのですが、日大は好きな大学です。

また、病院歯科で働く中で、学生、若手歯科医師など、私の経験を伝える、教育の重要性を感じていました。これを行うには教育機関勤務が必須と思い応募しました。松戸歯学部では地域医療、訪問診療を重視していること、患者数が多く口腔外科的疾患の患者も多いことも、大きな選択理由です。

古谷会長

これからを担う若者に未来を託すという意味でも教育はとても大事ですね。



《 入職 3 か月 松戸歯学部の印象 》

石井教授

学生が真面目で一生懸命、先生方や病院スタッフも一生懸命に頑張っている、皆すごく仲が良いという印象です。今どきは、担当患者の終了=帰宅なんて先生もいらっしゃいますが、ここは違っていて、患者が大勢待っていれば担当医をサポートするようにお互い助け合っています。松戸歯学部に来て、私は毎日、本当にとても楽しいです。



小椋教授

10月に学園祭が開かれ、そのときに、学生みんな一生懸命に働いていると感じました。

そして、福本学部長をはじめ、教員や事務の方も皆とても優しい、親切だという印象です。

《 これからの歯科業界に対応できる歯科医師像とは 》

小椋教授

今後は、地域包括ケアシステムの中で訪問診療など、歯科医師が地域の中へ出て行くことが必要と考えています。

さらに、口の中全体や全身を管理することも必要、齲蝕や歯周病の管理のみでなく、口腔機能の管理が重要でしょう。

医科歯科連携、介護職との連携といった治療・管理・連携型の歯科医療が必要になると思います。

石井教授

私も小椋先生のおっしゃる通りと思います。

さらには、渋沢栄一先生の言葉、士魂商才（武士の魂と商人の才能を兼ね備えること）が歯科にも必要と考えています。歯科について詳しく知ること、商才、経営的視点も持ち合わせなければならぬと思います。



古谷会長

ありがとうございます。幅広いお考えをお持ちのお二人と話せて嬉しいです。

《 松戸歯学部の学生に対し教えたいたこと メッセージ 》

石井教授

まずは松戸歯学部とは別の病院でおこなっていることも知っていただきたいです。

それから、臨床歯科栄養学と言っていますが、一生涯食べられる口を作ることに努めていただきたいです。そのためには歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士さらに他の職種との多職種連携、地域医療、訪問も必要になりますので、このようなことを教授したいです。栄養についても詳しく教えたいたと考えています。

小椋教授

来年度、私が教員一年目なので、まずは学生から色々と教えていただく方だと感じています。

学生には一生懸命勉強し国家試験をクリアして、歯科医師としてのスタートラインに立ってもらいたいと思っています。私はそれを出来る限りサポートします。そして歯科医師となった暁には、地域の中で働き、多職種と連携しながら、役割を果たせる歯科医師になっていただきたいと思っています。

また、高校や大学の同級生、先輩後輩、部活の仲間などの繋がりを大事にしていただきたいと思います。歯科の世界は非常に狭いので、新しく知り合った方の知人は顔見知りということが良くありますので、皆と仲良く交流していただけると良いと思っています。

古谷会長

私もお二人同様に、学生にはコミュニケーションをしっかりと取れるようになってほしいです。

インタビューを終えて、先生方をより身近に感じられるようになりました。小椋先生、石井先生、本日はありがとうございました。



企画

病理学講座教授

久山 佳代

写真撮影

同窓会広報委員

野上 俊雄

編集

生化学・分子生物学講座 竹内 麗理

解剖学講座 榊 実加